



きたごう みちひろ
北郷 伯弘 議員

中学生海外研修

今後の展望は

教育長／当面取り止め、新たに検討

北郷
中学生を対象とした海外研修は、新型コロナウイルス感染症により今年度は中止すると報告を受けました。研修場所、研修時期を含めて今後の展望を伺います。

教育長
安全管理の徹底が困難なため、海外研修は当面取り止めとします。天栄村のブリティッシュヒルズを利用した異文化交流宿泊体験事業の継続、外国語指導助手を効果的に活用し、英語教育を推進するとともに、1人1台タブレット端末を配備し、オンライン授業や学習支援サイトなどの拡充に取り組み、新たな展望を検討します。



昨年度の海外研修

北郷
平成27年の教育ビジョン策定から5年が経過し、第二次の教育ビジョンを策定しましたが、本町のまちづくりを展望したとき、次の世代を担う人材をどのように育成していくのか伺います。

教育ビジョン 次世代の人材育成は 教育長／様々な教育事業を実施

教育長
第二次広野町教育ビジョンにおける施策の方向性として、「確かな学力を育成する学校教育の推進」「地域と学校が協働する学びの創造」「グローバル人材を育成する教育の推進」「学びのセーフティネットの構築」の4つの視点で、ICT支援員の配置、映像教育の実施、魅力化推進協議会の設立、外国語指導助手の配置、町営学習塾の開設、各種検定料の補助などの事業を実施しています。

※ICT 情報通信技術

畑中
令和2年度の乳がん検診は、昨年受診した人が受診できないと通知が来ていますが、2年に1度の検診にした理由をお聞きします。また、来年度から子宮がん検診が2年に1度になることについても理由をお聞きします。

町長
厚生労働省の科学的根拠に基づくがん検診を推進する方針と「がん検診のあり方に関する検討会」の報告書にある2年に1度とするものが適当であるという報告内容に基づき検診間隔を変更しました。子宮頸がん検診についても同様に毎年受けても隔年で受けても変わらないという科学的根拠に基づき、2年に1度の検診としました。

がん検診 回数減の理由は

町長／科学的根拠に基づき見直し



はたなか ひろこ
畑中 大子 議員

感染症情報提供

タブレット等配布を

町長／小中学校に1人1台配備

畑中
新型コロナウイルス感染症は、今後の拡大の予想もされています。対策に関する町民への情報提供や、子供たちのオンライン授業にも対応できるタブレットなどの機器を各家庭に届けることが必要ではないでしょうか。



現在使われている授業用タブレット

町長
町民一人一人が感染症予防対策の情報を得られるよう、広報ひろのなどにより必要な情報を全戸に配布し、携帯電話やスマートフォン、パソコン等を利用されている方には、町ホームページにおいて情報を届けています。小中学校では、児童・生徒全員分のタブレット端末配備、小学校、中学校内のインターネット並びにLAN環境の再整備、インターネット環境がない家庭へのモバイルルーター貸し出しに取り組み、こども園においては、5歳児を対象としたシステム構築に取り組み、情報通信技術を活用した学習環境を年内に構築します。